

福岡大学 医学会ニュース

No. 57

福岡大学医学会 福岡大学医学部内

「不老長寿」を目指して



名誉教授 前微生物・免疫学教授
永山 在明

三月末をもって福岡大学を退職した。平成元年四月に佐賀医科大学から着任して十九年、バンコマイシン耐性黄色ぶどう球菌の耐性メカニズム、性感症で憂慮されているクラミジア・トラコマイシスと反応性関

節炎との関連、マクロファージの免疫細胞としての機能などに興味をもち、いずれも臨床にすこしでも近い立場でと思い研究を続けてきた。退職後はこれまで培ってきた知識や経験を生かして、臨床士としてもお役に立てればと考えて、福岡天神南クリニックという小さな外来診療所で、患者さんと接している毎日である。

「免疫」という概念は、一度伝染病に罹患して回復すると、それには二度と感染しないという現象から導かれ、現在では外来性の病原微生物のような異物だけではなく、「自己」と「非自己」を識別する生体防御機構であることが明らかとなってきた。そこでは、樹状細胞、マクロファージ、T細胞、B細胞など多くの免疫系細胞とそれらが産生する種々のサイトカインが複雑なネットワークを形成して個体の生命を維持している。

免疫は出生後から次第に成熟し、思春期ごろから三十歳台前半ごろまでは、いわゆる「免疫力」が高い状態にある。免疫系細胞間の

法医学の今後の発展への期待



名誉教授 前法医学教授
柏村 征一

本年三月末日をもちまして、選択停年制を利用して退職いたしました。福岡大学法医学教室に二十二年間、お世話になりました。当時重要視されず、出題数は毎年一題程度でした。その後、法医学会の必死の努力で、次第に脚光をあびるようになり、法医学教授の著書・事件帖等がベストセラーになったり、TVドラマが放映され、メディアでも扱われるようになりまし

た。更に患者の権利意識の高まりで、今まであまり注目されなかった医の倫理に目が向けられるようになり、多くの大学に医の倫理審査委員会が設置されました。それに伴って、医療事故も以前のように隠へいとは不可能になってきて医療事故裁判も急増しました。今まで

は法律に背を向けてきた医療者も、それでは裁判に勝てないことに気付いて、医師法を読むようになり、異状死についても真剣に考えるようになってきました。それと共に医師国家試験でも、その重要性が認識されてきて法医学に関連する出題数も年々増加しています。二十年前に比すと雲泥の差です。現在では法医学解剖の重要性が認識されてきて、全国の法医学解剖数は増加の一途をたどっています。ま

さに今は法医学の発展期であると言えます。しかしながら更なる発展を期すには大きなネックがあります。それは法医学教室のマンパワーの不足、とくに解剖執刀者の不足です。法医学解剖が増えても執刀者の数は増えておりません。執刀者が二人いる福岡大学法医学教室は極めて恵まれていますがほとんどの大学では執刀者は教授一人だけで、一人もいない大学も五指を越えます。その為、執刀者は

解剖に追われ、目の回る忙しさに限界を越えてきており、このままではパンクすることは目に見えています。この実情は国会でも議論され、法務省も警察庁も真剣に法医学者の養成に力を入れるようになって来ましたが、その一つが解剖経費(含謝金)の大幅な増額であります。今まではボランティア精神で行っており教室は赤貧状態でした。それがや



退職に際し



名誉教授 前臨床検査医学教授
小野 順子

三月で福岡大学を定年退職いたしました。医学会ニュースへの原稿依頼を受けて、足かけ二十年におよぶ福岡大学での生活が私にと

大学(当時)から郷里の福岡に帰るにあたり、当時の内科学第一奥村恂教授、浅野喬助教授をお願いをして、臨床検査としてのピークであったと思います。臨床検査医学講座および検査部に異動後は、病院の電算化があ

りまして、その後も学部教育や病院の安全管理など、様々なことを経験し、夢中で過ごして参りました。しかし定着しなかった事柄も多く、システムとして維持、発展させることの困難さ、それに要するエネルギーの膨大さを感じることになりました。

平成十八年には三十年にわたるテーマであった1型糖尿病に対する膵島移植の臨床応用が成功し、夢を託して下さった患者さんと、共に励んだ多くの方々との思いが結実したものと感謝しております。幸いこの間、内科第一、感染症・血液・内分泌内科を兼務させていただき、草の根的な診療をした

いた、また在宅で看ている母にも、もう少し関わりた

いと、母に、もう少し関わりた

いと、母に、もう少し関わりた

いと、母に、もう少し関わりた

いと、母に、もう少し関わりた

いと、母に、もう少し関わりた

いと、母に、もう少し関わりた

いと、母に、もう少し関わりた

いと、母に、もう少し関わりた

いと、母に、もう少し関わりた

いと、母に、もう少し関わりた

新 風

平成20年4月1日付けで本学へ赴任、または昇格された方に自己紹介をしていただきました。

法医学教授

久保 真一



この度、平成二十年四月一日付で、法医学教室教授として着任しました。

私は、長崎市出身で、昭和五十九年に長崎大学医学部を卒業し、大学院で法医学を専攻いたしました。その後、同法医学教室の助手、講師、助教授を経て、平成九年一月一日付で、徳島大学医学部法医学教室教授に就任しました。徳島大学には十一年三ヶ月在職したことになりました。専門は、法医学、特に頭部外傷を中心とした研究に取り組んで参りました。また、薬毒物による生体の変化を病理学的手法、主に免疫組織化学的染色法を用いて観察してきました。

昨年来、相模原市における力士の暴行事件を契機に、犯罪の見逃し、死因の解明制度の不備が問題となっており、これまで社会の裏方であった法医学実務(死体検案

法医学)も話題となつています。日本における死因究明制度は、犯罪や事故・事件が中心の制度で、司法解剖がこれにあたります。しかし、司法解剖の対象とならない死体の場合、たとえその死因が不明であっても死因を究明する制度(監察医制度)は一部地域にはありません。福岡県にはありません。このような現状の中、死体検案を行う医師の数も不足しています。医師として、生きている患者さんばかりでなく、死んだ人を「診る」という考え方も重要です。医学教育を通して、臨床医であつても死んだ人を「診る」こと(死体検案)ができる医師の養成を目指すとともに、さらには法医学を志す後継者の育成に取り組みたいと考えています。

研究面では、福岡大学医学部法医学教室は、初代の永田教授、柏村教授と一貫して法医学中毒学に取り組んできております。私もこの伝統を引き継ぎ、法医学中毒学に積極的に取り組み一層の研究の発展に寄与したいと考えております。

これからは福岡大学医学部の一員として、これまでの経験を活かし、教育、研究、法医学実務を通じた社会貢献に微力ながら尽力するつもりであります。何卒、宜しくお願い申し上げます。

呼吸器・乳腺内分泌・小児外科学教授

岩崎 昭憲



呼吸器・乳腺内分泌・小児外科教室の主任教授として今年四月一日より前任の白田高歩教授より教室を引き継ぐことになりました。

院からの厚い信頼を得て、半の一年半をIVR部門で、後半の一年半を当時新たに設けられたMRR部門に還元できるテーマを中心として研究を進展させ、志しを高く持つ人材の育成に力を注ぎたいと思っております。どうかこれからも宜しくお願いします。

放射線医学教授

吉満 研吾



本年四月より、福岡大学医学部放射線医学教室に赴任して参りました。私は、昭和六十年に九州大学医学部を卒業後、九州大学放射線科(現放射線科)に入局し放射線科専門医になることを目指しました。入局後は、広島、小倉、佐賀などの関連病院で臨床研修を積み、多くの医師の先導で放射線医学の本場である米国に臨床留学されたことに刺激を受け、私もECFMG/FLEX(現在のUSMLEに相当)を受験し、米国臨床留学の資格を得て一九九一年から一九九三年の三年間米国テキサス州MDアンダーソン癌センターで放射線診断部門のクリニカルフェローとして修練を積み、帰国後、放射線科専門医として勤務することになりました。臨床研修を積み、多くの医師の先導で放射線医学の本場である米国に臨床留学されたことに刺激を受け、私もECFMG/FLEX(現在のUSMLEに相当)を受験し、米国臨床留学の資格を得て一九九一年から一九九三年の三年間米国テキサス州MDアンダーソン癌センターで放射線診断部門のクリニカルフェローとして修練を積み、帰国後、放射線科専門医として勤務することになりました。

放射線科専門医として勤務することになりました。臨床研修を積み、多くの医師の先導で放射線医学の本場である米国に臨床留学されたことに刺激を受け、私もECFMG/FLEX(現在のUSMLEに相当)を受験し、米国臨床留学の資格を得て一九九一年から一九九三年の三年間米国テキサス州MDアンダーソン癌センターで放射線診断部門のクリニカルフェローとして修練を積み、帰国後、放射線科専門医として勤務することになりました。

任いたしました。私の実家は宮崎県清武町です。大変な田舎ですが日南海岸に近く、海を見に行きました。宮崎の紺碧の空と真っ青な海を見ると今でも心が落ち着きます。昭和五十六年宮崎医科大学を卒業し同年九州大学医学部放射線科に入局いたしました。神経内科、第二外科、神経放射線科、そして脳神経外科といった二年間の大学研修の後、黒崎にある九州厚生年金病院に一年間お世話になりました。

この三年間に出会った同期生や先輩方はその後の私の人生にとって宝物となりました。現在の初期研修・後期研修にあたり、後期研修に当たるとは思いますが、この三年間がどれほど大切であるかは年をとってから実感されます。医学生には高い志をもって研修病院を選択してもらいたいと思います。四年目からは九州大学第二病理・神経病理で全身病理および脳腫瘍の病理を学び、実験脳腫瘍・血液腫瘍の研究で医学博士を取得しました。昭和六十二年から二年間米国フロリダ大学放射線科に留学し、微小外科手術の勉強をいたしました。帰国後は二年間飯塚病院放射線科に勤務し救急医療と手術に没頭しました。平成四年に九州大学病院放射線科に病棟医長・外来医長として戻り、研修医を指導する立場になりました。

平成七年より国立病院九州医療センター脳神経外科医長として赴任し、脳血管内科、脳神経外科、脳腫瘍、脳卒中医療の発展に努力してまいりました。現在では、九州医療センターは脳卒中医療に力を入れています。最近、脳神経外科系離れが顕著となり脳神経外科も例外ではありませんが、初期研修医を指導しながら感じることは、医学部を卒業した時点では高い使命感と理想に燃えて

この度、平成二十年四月一日より福岡大学医学部脳神経外科主任教授として着任いたしました。私の実家は宮崎県清武町です。大変な田舎ですが日南海岸に近く、海を見に行きました。宮崎の紺碧の空と真っ青な海を見ると今でも心が落ち着きます。昭和五十六年宮崎医科大学を卒業し同年九州大学医学部放射線科に入局いたしました。神経内科、第二外科、神経放射線科、そして脳神経外科といった二年間の大学研修の後、黒崎にある九州厚生年金病院に一年間お世話になりました。

いるのですが、次第に周囲の雑音に惑わされ外科系の魅力から遠のいていくように思います。私たちが脳神経外科を目指したきっかけは、先輩から前は外科向きだと勧められその気になった方も多々います。理想も意欲を失わず理想を現実として社会に貢献出来るよう指導していくのが最も大切な医学部教官の役目と考えています。

臨床検査医学教授

松永 彰



平成二十年四月より臨床検査医学の主任教授に心臓・血管内科より異動・昇格しました。北九州市八幡西区生まれ、父(武)は内科開業医で今も八幡で現役診療しています。福岡大学医学部を昭和五十五年卒業。学生時代は医学部創設部に所属し、剣道は弱かったのですが、けっこう一生懸命やっていました。現在は医学部創設部顧問をしています。

卒業後は荒川規矩男先生の福岡大学第二内科に研修医として入局。昭和五十七年より福岡大学病態生化学系大学院生として松岡雄治先生、黒木政秀先生のもとで生化学的実験手法を習い、CEA関連の研究で博士号を頂きました。大学院修了後は第二内科に戻り、昭和六十一年より約二年半の間、米国ダラスにあるテキサス州立大学サウスウエスタンメディカルセンターの生化学にリサーチフェローとして留学しました。帰国後、第二内科のリポ蛋白質研究グループに属し、助手、講師を経て、平成十三年からは

救命救急医学教授

石倉 宏恭



平成二十年四月より救命救急医学の主任教授に心臓・血管内科より異動・昇格しました。北九州市八幡西区生まれ、父(武)は内科開業医で今も八幡で現役診療しています。福岡大学医学部を昭和五十五年卒業。学生時代は医学部創設部に所属し、剣道は弱かったのですが、けっこう一生懸命やっていました。現在は医学部創設部顧問をしています。

卒業後は荒川規矩男先生の福岡大学第二内科に研修医として入局。昭和五十七年より福岡大学病態生化学系大学院生として松岡雄治先生、黒木政秀先生のもとで生化学的実験手法を習い、CEA関連の研究で博士号を頂きました。大学院修了後は第二内科に戻り、昭和六十一年より約二年半の間、米国ダラスにあるテキサス州立大学サウスウエスタンメディカルセンターの生化学にリサーチフェローとして留学しました。帰国後、第二内科のリポ蛋白質研究グループに属し、助手、講師を経て、平成十三年からは

十代で救急医を一生の仕事と決め、四十代は迷うことなく前任地である京都医療センターでERの立ち上げや重症患者管理に全力を注いでいました。ようやく京都での仕事が順調に稼働してきた矢先、今回福岡大学への異動が決まりました。まさに青天の霹靂であり、五十歳にして私の「天命」は福岡大学の救命救急医学を日本有数の部署にすることであると悟りました。(ただし、未だ四十九歳ですが)

初めての地である福岡は人々が温かく親切で、街は都会と自然が適度に融合して穏やかであり、とても好印象を持ちました。自宅から海や山も車で三十分圏内にあり、スポーツ好きの私としては京都時代にあまり時間がとれなかったマリンスポーツやゴルフ、テニス等を時間の許す限り満喫したいと思っております。

赴任当初は不安な気持ちもありましたが、その不安もすぐに一掃され、今はすっかり福岡大学人になりました。これからは福岡大学医学部の更なる活性化のために、救命救急医学講座ならびに救命救急センターは救命診療のみならず、多角的に患者評価や管理が出来る医師を育成するための研修・教育施設としても貢献出来るよう頑張っていきます。最後に、永年冬眠状態にあった当教室のホームページを七月にリニューアルしましたので、是非アクセスしてみてください。それではこれからの救命救急医学講座にどうぞ期待下さい。



看護学科教授

嶋松 陽子

今年四月に医学部看護学科に着任しました。私は、佐賀で育ちましたが、看護を学ぶために上京し、臨床と教育経験をへて九州に戻ってきました。本学に着任するまでは、短期大学と大学で十一年間、母性看護学の教育に携わってきました。前任校の大学は看護短大から大学に移行した新設校で行うことの大変さを痛切に感じながらの教育でした。しかしながら、看護に希望を抱く学生たちとよりよい看護を求めて、お互いに刺激し合いながら実践してきた感じがあります。新設校では、実際にカリキュラムを動かしてみたいと思いつくものが出てくるもの。一つずつ対処しながら進めたものには大変さもありましたが、もう一方では、作り上げる充実感もありました。本学、看護学科もまだ開設して二年目であり、また同じ状況に置かれたのですが、これも何かの巡り合わせと思っています。これまでの経験を生かして努力していきたいと思っています。また、私が担当する母性看護学は、周産期医療の現状と妊産婦・女性のニーズと関連させてみると様々な問題を抱えています。加えて、助産師も少ないのが現状です。これが影響して母性看護実習では施設確保が最大の困難事でしたが、本学科は大学病院という実習施設に恵まれているので幸いに思っています。しかし、妊産婦や女性のニーズは多様化してきている半面、関係性の面では問題も抱えています。これまで、教育においては、母と子の関係性の側面から親意識の形成や母子関係形成について考えてきましたが、本学科においても大学病院としての特殊性の中で同じように実践していけたらと思っています。どうぞよろしくお願いたします。



看護学科教授

高橋 博美

四月に看護学科に着任しました。担当科目は成人看護学ですが、研究は看護師の資質や発達過程に関心があつた教育方法・評価を中心に行っています。私は東北地方で生まれ、育ち、仕事は神奈川・茨城・埼玉ともつばら関東地方をフィールドに上陸してきました。福岡には初上陸です。福岡を含め九州は旅行や学会で訪れる所だと思つていましたが、このたび縁あつて福岡大学医学部で仕事をさせていただくことになりました。福岡の住民になりました。さて、これまでの自分の歩みを振り返ってみます。歩みには新しがり屋の傾向があるようです。新設校の第一期生として学生時代を過ごし、開院間もない公立病院で看護師としてのスタートをきりました。その後、当時新しい試みとして注目を集めたPFC方式(症度別ケア)の看護に興味をもち筑波大学付属病院に異動し、さらに同大学医療技術短期大学部で教育に関わる機会に恵まれました。その後看護学教育の四年制大学化への急速な移行の流れの中で、埼玉県立大学の開設準備と教育に携わりました。そして今、新設の福岡大学医学部看護学科の一員として加えていただき、更なる歩みを創めたということになりました。

四月に看護学科に着任しました。担当科目は成人看護学ですが、研究は看護師の資質や発達過程に関心があつた教育方法・評価を中心に行っています。私は東北地方で生まれ、育ち、仕事は神奈川・茨城・埼玉ともつばら関東地方をフィールドに上陸してきました。福岡には初上陸です。福岡を含め九州は旅行や学会で訪れる所だと思つていましたが、このたび縁あつて福岡大学医学部で仕事をさせていただくことになりました。福岡の住民になりました。さて、これまでの自分の歩みを振り返ってみます。歩みには新しがり屋の傾向があるようです。新設校の第一期生として学生時代を過ごし、開院間もない公立病院で看護師としてのスタートをきりました。その後、当時新しい試みとして注目を集めたPFC方式(症度別ケア)の看護に興味をもち筑波大学付属病院に異動し、さらに同大学医療技術短期大学部で教育に関わる機会に恵まれました。その後看護学教育の四年制大学化への急速な移行の流れの中で、埼玉県立大学の開設準備と教育に携わりました。そして今、新設の福岡大学医学部看護学科の一員として加えていただき、更なる歩みを創めたということになりました。

看護学科教授

焼山 和憲

専門は精神看護学ですが、私達男性看護師の養成制度は遅く、男性の入学できる三年課程(国内で唯一京都、東京、千葉に男性が入学できる三年課程)の看護学校がなかった。や短大、大学は皆無に等しく、私は進学課程というコースを経て、その後大学に進学しました。学生



看護学科教授

三浦 伸一郎

昭和三十八年、福岡大学医学部第二内科に入局し、臨床研修、大学院、留学を経て現在に至っています。「動脈硬化性心臓血管疾患と高血圧(アンジオテンシンII受容体拮抗薬)の予防と治療戦略」をテーマとして臨床・研究をしています。大学院では、高血圧患者の運動療法という臨床研究を四年間行い、留学では、米国クローバーランドクリニック・ラーナー研究所に五年半在籍し、その間、生化学的な基礎研究をから臨床まで幅広く研究ができたことが、現在の財産となっています。新臨床研修制度が始まってから、特に医師の専門医志向が高くなり、研究がおろそかになってきています。もちろん多くの医師は臨床を一生懸命にやっていますが、研究を続ける必要はありますが、一定期間、医師として研究を経験することは非常に重要だと思います。今後、少しでも医療に役立つことができるように精進して参りたいと思っております。宜しくお願い致します。

昭和三十八年、福岡大学医学部第二内科に入局し、臨床研修、大学院、留学を経て現在に至っています。「動脈硬化性心臓血管疾患と高血圧(アンジオテンシンII受容体拮抗薬)の予防と治療戦略」をテーマとして臨床・研究をしています。大学院では、高血圧患者の運動療法という臨床研究を四年間行い、留学では、米国クローバーランドクリニック・ラーナー研究所に五年半在籍し、その間、生化学的な基礎研究をから臨床まで幅広く研究ができたことが、現在の財産となっています。新臨床研修制度が始まってから、特に医師の専門医志向が高くなり、研究がおろそかになってきています。もちろん多くの医師は臨床を一生懸命にやっていますが、研究を続ける必要はありますが、一定期間、医師として研究を経験することは非常に重要だと思います。今後、少しでも医療に役立つことができるように精進して参りたいと思っております。宜しくお願い致します。

看護学科教授

松岡 弘文

昭和五十四年福岡大学入学(第八回生)、このころ島廻り橋から東七隈へ抜けるいわゆる福大通りはまだ通っておらず、南片江の方へ



昭和三十八年、福岡大学医学部第二内科に入局し、臨床研修、大学院、留学を経て現在に至っています。「動脈硬化性心臓血管疾患と高血圧(アンジオテンシンII受容体拮抗薬)の予防と治療戦略」をテーマとして臨床・研究をしています。大学院では、高血圧患者の運動療法という臨床研究を四年間行い、留学では、米国クローバーランドクリニック・ラーナー研究所に五年半在籍し、その間、生化学的な基礎研究をから臨床まで幅広く研究ができたことが、現在の財産となっています。新臨床研修制度が始まってから、特に医師の専門医志向が高くなり、研究がおろそかになってきています。もちろん多くの医師は臨床を一生懸命にやっていますが、研究を続ける必要はありますが、一定期間、医師として研究を経験することは非常に重要だと思います。今後、少しでも医療に役立つことができるように精進して参りたいと思っております。宜しくお願い致します。

昭和五十四年福岡大学入学(第八回生)、このころ島廻り橋から東七隈へ抜けるいわゆる福大通りはまだ通っておらず、南片江の方へ

看護学科教授

井上 善仁

この度、瓦林達比古教授の御推薦により産婦人科准教授を拝命致しました。友人からは「ゼンジ」と呼ばれておりましたが、正しくは「ヨシヒト」です。現在の皇太子と同じく、昭和三十五年生まれ、天皇家では最後に「仁」という字が付くので私もその様な名前になったと、とてもいい加減な命名理由を中学校の時に母から聞き、驚愕しました。小学生の頃はNHKのアナウンサーになるつもりでしたが、どこかで初心を忘れ、九州大学医学部を一九八四年に卒業、すぐに婦人科学産科学教室に入局致しました。県立宮崎病院で研修医としてスタート、三年目からは栗山照先生の薬理化学教室で平滑筋の電気生理学的研究を主とした大学院生活を送りました。この当時の栗山教室は大学院生が二十名程在籍し、年間四十本以上の英文論文が毎年出していた黄金時代でした。博士課程終了後二年間米国シンシナティ



産婦人科准教授

馬場 みちえ

この度、瓦林達比古教授の御推薦により産婦人科准教授を拝命致しました。友人からは「ゼンジ」と呼ばれておりましたが、正しくは「ヨシヒト」です。現在の皇太子と同じく、昭和三十五年生まれ、天皇家では最後に「仁」という字が付くので私もその様な名前になったと、とてもいい加減な命名理由を中学校の時に母から聞き、驚愕しました。小学生の頃はNHKのアナウンサーになるつもりでしたが、どこかで初心を忘れ、九州大学医学部を一九八四年に卒業、すぐに婦人科学産科学教室に入局致しました。県立宮崎病院で研修医としてスタート、三年目からは栗山照先生の薬理化学教室で平滑筋の電気生理学的研究を主とした大学院生活を送りました。この当時の栗山教室は大学院生が二十名程在籍し、年間四十本以上の英文論文が毎年出していた黄金時代でした。博士課程終了後二年間米国シンシナティ

この度、瓦林達比古教授の御推薦により産婦人科准教授を拝命致しました。友人からは「ゼンジ」と呼ばれておりましたが、正しくは「ヨシヒト」です。現在の皇太子と同じく、昭和三十五年生まれ、天皇家では最後に「仁」という字が付くので私もその様な名前になったと、とてもいい加減な命名理由を中学校の時に母から聞き、驚愕しました。小学生の頃はNHKのアナウンサーになるつもりでしたが、どこかで初心を忘れ、九州大学医学部を一九八四年に卒業、すぐに婦人科学産科学教室に入局致しました。県立宮崎病院で研修医としてスタート、三年目からは栗山照先生の薬理化学教室で平滑筋の電気生理学的研究を主とした大学院生活を送りました。この当時の栗山教室は大学院生が二十名程在籍し、年間四十本以上の英文論文が毎年出していた黄金時代でした。博士課程終了後二年間米国シンシナティ

この度、瓦林達比古教授の御推薦により産婦人科准教授を拝命致しました。友人からは「ゼンジ」と呼ばれておりましたが、正しくは「ヨシヒト」です。現在の皇太子と同じく、昭和三十五年生まれ、天皇家では最後に「仁」という字が付くので私もその様な名前になったと、とてもいい加減な命名理由を中学校の時に母から聞き、驚愕しました。小学生の頃はNHKのアナウンサーになるつもりでしたが、どこかで初心を忘れ、九州大学医学部を一九八四年に卒業、すぐに婦人科学産科学教室に入局致しました。県立宮崎病院で研修医としてスタート、三年目からは栗山照先生の薬理化学教室で平滑筋の電気生理学的研究を主とした大学院生活を送りました。この当時の栗山教室は大学院生が二十名程在籍し、年間四十本以上の英文論文が毎年出していた黄金時代でした。博士課程終了後二年間米国シンシナティ

この度、瓦林達比古教授の御推薦により産婦人科准教授を拝命致しました。友人からは「ゼンジ」と呼ばれておりましたが、正しくは「ヨシヒト」です。現在の皇太子と同じく、昭和三十五年生まれ、天皇家では最後に「仁」という字が付くので私もその様な名前になったと、とてもいい加減な命名理由を中学校の時に母から聞き、驚愕しました。小学生の頃はNHKのアナウンサーになるつもりでしたが、どこかで初心を忘れ、九州大学医学部を一九八四年に卒業、すぐに婦人科学産科学教室に入局致しました。県立宮崎病院で研修医としてスタート、三年目からは栗山照先生の薬理化学教室で平滑筋の電気生理学的研究を主とした大学院生活を送りました。この当時の栗山教室は大学院生が二十名程在籍し、年間四十本以上の英文論文が毎年出していた黄金時代でした。博士課程終了後二年間米国シンシナティ

看護学科教授

馬場 みちえ

平成二十年四月より医学部看護学科地域看護学の准教授として着任いたしました。看護学科では、看護師、保健師のライセンスを取得いたしますが、私は保健師教育担当になります。私は福岡大学と縁が長く、医学部別館ができて数年の頃に公衆衛生学教育技術職員として採用されました。公



看護学科教授

馬場 みちえ

平成二十年四月より医学部看護学科地域看護学の准教授として着任いたしました。看護学科では、看護師、保健師のライセンスを取得いたしますが、私は保健師教育担当になります。私は福岡大学と縁が長く、医学部別館ができて数年の頃に公衆衛生学教育技術職員として採用されました。公

平成二十年四月より医学部看護学科地域看護学の准教授として着任いたしました。看護学科では、看護師、保健師のライセンスを取得いたしますが、私は保健師教育担当になります。私は福岡大学と縁が長く、医学部別館ができて数年の頃に公衆衛生学教育技術職員として採用されました。公

呼吸器・乳腺内分泌・小児外科准教授

白石 武史



「福岡大学へ来て一緒に肺移植をやらなかい？」産業医大では臓器移植は実現し

「一九九三年夏、日本で肺移植を実現する夢を抱きワシントン大学（ミズーリ州）に留学中であつた私に旧第

大へは戻らずに福大で「肺移植実現の夢」への努力を続ける決心をしました。同時期に福大へ移籍した諸先輩の中

「一九九四年七月に赴任以来十余年にわたり第二外科発展のお手伝いをさせて頂く

その過程で一九九八年にはアルフレッド病院（ピクトリア州、豪州）へ肺移植臨床修練医として、この時は福大を母校として派遣して頂く機会もありました。

二〇〇五年春、福岡大学は「全国でも数少ない「脳死肺移植認定施設」に選定され、二〇〇六年秋には私立大学病院としては日本初の脳死肺移植と生体肺移植をそれぞれ成功させることが

できました。「肺移植」をライフワークの一つとされてきた白日前教授の引退一年前の感慨深い出来事であり、私自身も福岡大学へ赴任して初めて「目的（恩）が果たせた」という強い思いを抱くことができました。

その後、福岡大学肺移植プロトコルは順調に症例を重ね、現在は安定した成績を示しつつあります。「脳死臓器移植」という複雑なシステムを実現できるという

二〇〇八年春、私たちの教室は岩崎昭憲新教授の下で新体制をスタートさせました。臓器別再編に伴い教室名も当時の「第二外科」から現在は「呼吸器・乳腺内分泌・小児外科」に変わ

少し小ぶりの科へと生まれ変わりました。今後、「福岡大学の呼吸器外科」は時代に則した新しい思考、新しい哲学の下に発展を続けていく

「一九九四年七月に赴任以来十余年にわたり第二外科発展のお手伝いをさせて頂く

その過程で一九九八年にはアルフレッド病院（ピクトリア州、豪州）へ肺移植臨床修練医として、この時は福大を母校として派遣して頂く機会もありました。

二〇〇五年春、福岡大学は「全国でも数少ない「脳死肺移植認定施設」に選定され、二〇〇六年秋には私立大学病院としては日本初の脳死肺移植と生体肺移植をそれぞれ成功させることが

進めて参りたいと思いますので、今後ともよろしくお願いいたします。趣味に関しては研究同様書などをはじめとしてこれまでインドア系を中心に色々かじって来ましたが、最近

の環境を整えるのが楽しみの一つです。循環器内科講師 小川 正浩

一九九一年福岡大学医学部を卒業後、福岡大学医学部第二内科に入局し、以後循環器学、ことに心臓電気生理学の研鑽を積んでまい

「一九九四年七月に赴任以来十余年にわたり第二外科発展のお手伝いをさせて頂く

その過程で一九九八年にはアルフレッド病院（ピクトリア州、豪州）へ肺移植臨床修練医として、この時は福大を母校として派遣して頂く機会もありました。

二〇〇五年春、福岡大学は「全国でも数少ない「脳死肺移植認定施設」に選定され、二〇〇六年秋には私立大学病院としては日本初の脳死肺移植と生体肺移植をそれぞれ成功させることが

二〇〇五年春、福岡大学は「全国でも数少ない「脳死肺移植認定施設」に選定され、二〇〇六年秋には私立大学病院としては日本初の脳死肺移植と生体肺移植をそれぞれ成功させることが

授にも大変感謝しています。帰国後はMayo Clinicでの臨床研究を生かし、総合医学研究センター福島武雄教授、脳神経外科井上亨教授の御高配もあり脳神経外科と協力してパーキンソン病や本局でお世話になった中山樹一郎教授のもとで仕事をさせていただくことになりました。専門は皮膚科ではヘルペスウイルス感染症です。その他に血液疾患やC型肝炎などの内科疾患に伴う皮膚症状、尋常性乾癬を中心

「一九九四年七月に赴任以来十余年にわたり第二外科発展のお手伝いをさせて頂く

その過程で一九九八年にはアルフレッド病院（ピクトリア州、豪州）へ肺移植臨床修練医として、この時は福大を母校として派遣して頂く機会もありました。

二〇〇五年春、福岡大学は「全国でも数少ない「脳死肺移植認定施設」に選定され、二〇〇六年秋には私立大学病院としては日本初の脳死肺移植と生体肺移植をそれぞれ成功させることが

二〇〇五年春、福岡大学は「全国でも数少ない「脳死肺移植認定施設」に選定され、二〇〇六年秋には私立大学病院としては日本初の脳死肺移植と生体肺移植をそれぞれ成功させることが

二〇〇五年春、福岡大学は「全国でも数少ない「脳死肺移植認定施設」に選定され、二〇〇六年秋には私立大学病院としては日本初の脳死肺移植と生体肺移植をそれぞれ成功させることが

二〇〇五年春、福岡大学は「全国でも数少ない「脳死肺移植認定施設」に選定され、二〇〇六年秋には私立大学病院としては日本初の脳死肺移植と生体肺移植をそれぞれ成功させることが

授にも大変感謝しています。帰国後はMayo Clinicでの臨床研究を生かし、総合医学研究センター福島武雄教授、脳神経外科井上亨教授の御高配もあり脳神経外科と協力してパーキンソン病や本局でお世話になった中山樹一郎教授のもとで仕事をさせていただくことになりました。専門は皮膚科ではヘルペスウイルス感染症です。その他に血液疾患やC型肝炎などの内科疾患に伴う皮膚症状、尋常性乾癬を中心

「一九九四年七月に赴任以来十余年にわたり第二外科発展のお手伝いをさせて頂く

その過程で一九九八年にはアルフレッド病院（ピクトリア州、豪州）へ肺移植臨床修練医として、この時は福大を母校として派遣して頂く機会もありました。

二〇〇五年春、福岡大学は「全国でも数少ない「脳死肺移植認定施設」に選定され、二〇〇六年秋には私立大学病院としては日本初の脳死肺移植と生体肺移植をそれぞれ成功させることが

二〇〇五年春、福岡大学は「全国でも数少ない「脳死肺移植認定施設」に選定され、二〇〇六年秋には私立大学病院としては日本初の脳死肺移植と生体肺移植をそれぞれ成功させることが

二〇〇五年春、福岡大学は「全国でも数少ない「脳死肺移植認定施設」に選定され、二〇〇六年秋には私立大学病院としては日本初の脳死肺移植と生体肺移植をそれぞれ成功させることが

二〇〇五年春、福岡大学は「全国でも数少ない「脳死肺移植認定施設」に選定され、二〇〇六年秋には私立大学病院としては日本初の脳死肺移植と生体肺移植をそれぞれ成功させることが

授にも大変感謝しています。帰国後はMayo Clinicでの臨床研究を生かし、総合医学研究センター福島武雄教授、脳神経外科井上亨教授の御高配もあり脳神経外科と協力してパーキンソン病や本局でお世話になった中山樹一郎教授のもとで仕事をさせていただくことになりました。専門は皮膚科ではヘルペスウイルス感染症です。その他に血液疾患やC型肝炎などの内科疾患に伴う皮膚症状、尋常性乾癬を中心

「一九九四年七月に赴任以来十余年にわたり第二外科発展のお手伝いをさせて頂く

その過程で一九九八年にはアルフレッド病院（ピクトリア州、豪州）へ肺移植臨床修練医として、この時は福大を母校として派遣して頂く機会もありました。

二〇〇五年春、福岡大学は「全国でも数少ない「脳死肺移植認定施設」に選定され、二〇〇六年秋には私立大学病院としては日本初の脳死肺移植と生体肺移植をそれぞれ成功させることが

二〇〇五年春、福岡大学は「全国でも数少ない「脳死肺移植認定施設」に選定され、二〇〇六年秋には私立大学病院としては日本初の脳死肺移植と生体肺移植をそれぞれ成功させることが

二〇〇五年春、福岡大学は「全国でも数少ない「脳死肺移植認定施設」に選定され、二〇〇六年秋には私立大学病院としては日本初の脳死肺移植と生体肺移植をそれぞれ成功させることが

二〇〇五年春、福岡大学は「全国でも数少ない「脳死肺移植認定施設」に選定され、二〇〇六年秋には私立大学病院としては日本初の脳死肺移植と生体肺移植をそれぞれ成功させることが

授にも大変感謝しています。帰国後はMayo Clinicでの臨床研究を生かし、総合医学研究センター福島武雄教授、脳神経外科井上亨教授の御高配もあり脳神経外科と協力してパーキンソン病や本局でお世話になった中山樹一郎教授のもとで仕事をさせていただくことになりました。専門は皮膚科ではヘルペスウイルス感染症です。その他に血液疾患やC型肝炎などの内科疾患に伴う皮膚症状、尋常性乾癬を中心

「一九九四年七月に赴任以来十余年にわたり第二外科発展のお手伝いをさせて頂く

その過程で一九九八年にはアルフレッド病院（ピクトリア州、豪州）へ肺移植臨床修練医として、この時は福大を母校として派遣して頂く機会もありました。

二〇〇五年春、福岡大学は「全国でも数少ない「脳死肺移植認定施設」に選定され、二〇〇六年秋には私立大学病院としては日本初の脳死肺移植と生体肺移植をそれぞれ成功させることが

二〇〇五年春、福岡大学は「全国でも数少ない「脳死肺移植認定施設」に選定され、二〇〇六年秋には私立大学病院としては日本初の脳死肺移植と生体肺移植をそれぞれ成功させることが

二〇〇五年春、福岡大学は「全国でも数少ない「脳死肺移植認定施設」に選定され、二〇〇六年秋には私立大学病院としては日本初の脳死肺移植と生体肺移植をそれぞれ成功させることが

二〇〇五年春、福岡大学は「全国でも数少ない「脳死肺移植認定施設」に選定され、二〇〇六年秋には私立大学病院としては日本初の脳死肺移植と生体肺移植をそれぞれ成功させることが

授にも大変感謝しています。帰国後はMayo Clinicでの臨床研究を生かし、総合医学研究センター福島武雄教授、脳神経外科井上亨教授の御高配もあり脳神経外科と協力してパーキンソン病や本局でお世話になった中山樹一郎教授のもとで仕事をさせていただくことになりました。専門は皮膚科ではヘルペスウイルス感染症です。その他に血液疾患やC型肝炎などの内科疾患に伴う皮膚症状、尋常性乾癬を中心

「一九九四年七月に赴任以来十余年にわたり第二外科発展のお手伝いをさせて頂く

その過程で一九九八年にはアルフレッド病院（ピクトリア州、豪州）へ肺移植臨床修練医として、この時は福大を母校として派遣して頂く機会もありました。

二〇〇五年春、福岡大学は「全国でも数少ない「脳死肺移植認定施設」に選定され、二〇〇六年秋には私立大学病院としては日本初の脳死肺移植と生体肺移植をそれぞれ成功させることが

二〇〇五年春、福岡大学は「全国でも数少ない「脳死肺移植認定施設」に選定され、二〇〇六年秋には私立大学病院としては日本初の脳死肺移植と生体肺移植をそれぞれ成功させることが

二〇〇五年春、福岡大学は「全国でも数少ない「脳死肺移植認定施設」に選定され、二〇〇六年秋には私立大学病院としては日本初の脳死肺移植と生体肺移植をそれぞれ成功させることが

二〇〇五年春、福岡大学は「全国でも数少ない「脳死肺移植認定施設」に選定され、二〇〇六年秋には私立大学病院としては日本初の脳死肺移植と生体肺移植をそれぞれ成功させることが

授にも大変感謝しています。帰国後はMayo Clinicでの臨床研究を生かし、総合医学研究センター福島武雄教授、脳神経外科井上亨教授の御高配もあり脳神経外科と協力してパーキンソン病や本局でお世話になった中山樹一郎教授のもとで仕事をさせていただくことになりました。専門は皮膚科ではヘルペスウイルス感染症です。その他に血液疾患やC型肝炎などの内科疾患に伴う皮膚症状、尋常性乾癬を中心

「一九九四年七月に赴任以来十余年にわたり第二外科発展のお手伝いをさせて頂く

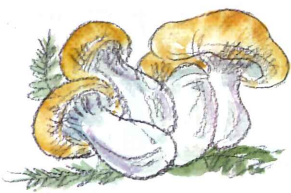
その過程で一九九八年にはアルフレッド病院（ピクトリア州、豪州）へ肺移植臨床修練医として、この時は福大を母校として派遣して頂く機会もありました。

二〇〇五年春、福岡大学は「全国でも数少ない「脳死肺移植認定施設」に選定され、二〇〇六年秋には私立大学病院としては日本初の脳死肺移植と生体肺移植をそれぞれ成功させることが

二〇〇五年春、福岡大学は「全国でも数少ない「脳死肺移植認定施設」に選定され、二〇〇六年秋には私立大学病院としては日本初の脳死肺移植と生体肺移植をそれぞれ成功させることが

二〇〇五年春、福岡大学は「全国でも数少ない「脳死肺移植認定施設」に選定され、二〇〇六年秋には私立大学病院としては日本初の脳死肺移植と生体肺移植をそれぞれ成功させることが

二〇〇五年春、福岡大学は「全国でも数少ない「脳死肺移植認定施設」に選定され、二〇〇六年秋には私立大学病院としては日本初の脳死肺移植と生体肺移植をそれぞれ成功させることが



誇りであり、私がまだ福岡大学に在る理由の一つでもあります。楽し過ぎた学生時代に遊びと部活動に力を注ぎすぎた結果、BSLが始まると自分の無知と無力さを思い知らされることにもなりました。最初に担当したおばあちゃんに、福大の先生方がみんな優しくして下さるのを見て、玄関に書いてある誓いの精神をもっているからなのですね。といわれて言葉に詰ってしまいました。それが今でも忘れられません。その日初めて、病院の玄関前でヒポクラテスの誓いを読みながら、自分が何一つ医師にならないう心構えができていなかったことを改めて気付かせられ、恥ずかしくためたままに帰りました。BSL中がむしむしに勉強したことがきっかけとなり、柔道と同じくらい医学というものを好きになったような気がします。卒業後は小児科へ入局し、非常に充実した研修医の二年間を過ごすことが出来ました。この間に新生児医療を専門とすることを決意したのですが、一九九九年にいったん臨床を離れ、福岡大学大学院医学研究科人間生物系専攻へ進学しました。この四年間の経験は、すっかり狭くなっていった私の視野を大きく広げてくれました。ここで学んだ基礎医学の知識や技術を無駄にせず新生児医療に還元していくことが、今後の私の大きな課題であると考えています。新生児医療の発展に少しでも貢献できるように、微力ではありますが全力を尽くすつもりです。



総合周産期母子医療センター講師
吉里 俊幸

発信できるような施設となるべく、微力ではありますが努力して参りたいと存じます。今後とも宜しくお願いいたします。

筑紫病院消化器科講師

平井 郁仁



平成二十年四月より福岡大学病院総合周産期母子医療センター講師に昇格させていただきました。昭和六十一年九州大学医学部を卒業し、産婦人科研修医を経て周産期医学に関する臨床および研究に従事して参りました。九州大学ではヒト胎児を対象とした中枢神経系制御からみた胎児心拍数変動と胎児行動学を中心とした胎児生理学に関する研究を行いました。平成九年からは二年間米国コーネル大学獣医学部で羊胎仔を対象として陣痛発来機序に関する動物実験を行いました。胎児は単に子宮という保育器の中で受動的に発達成長するものではなく、母体環境の影響を受けながらも個として能動的に成長していく様子を垣間見ることができました。

その後国立病院九州医療センターを経て、平成十四年から福岡大学病院に勤務させていたためです。赴任後は総合周産期母子医療センター産科病棟医長、産婦人科教室医局長を経て、現在外来医長を兼任しています。ここでは、臨床に即したテーマに焦点をあて、早産予防に関する研究、超音波断層法を用いた胎児形態異常の出生前診断さらには遺伝相談に力をいれています。

総合周産期母子医療センターは周産期医療において今後とも福岡都市圏の中心的基幹施設として発展していくものと思えます。臨床はもとより臨床研究においても世界に向かって情報を



筑紫病院外科講師
三上 公治

レベルを思っています。私は留学経験もなく、英語が堪能なわけではありませんが、Everyday in every way, I'm getting better and better. という言葉が好きです。これは、いろんな意味で自分が弱っている時や自信を失くした時に効果のある言葉だと思います。実は、医師になって二年目にランパレー症候群という病気になる三ヶ月半入院し、半年程休養していました。福大病院の六階北病棟に入院していましたが、発症当初は寝たきりで手足が全く動かず、歩行はおろか食事介助や清拭が必要な状態でした。この時、前述の言葉を知り、私も消化器病の患者さんとともにリハビリに励み、消化器科医師をやめることも考えましたが、多くの方々の支えもあり、何とか回復し現在に至っております。これからも、時には上司から叱咤されたり、後輩に突き上げられたりするかもしれませんが、Everyday in every way, I'm getting better and better. と自己暗示しながら愚直に消化器病の臨床に精進するつもりです。今後ともよろしくお願致します。

教室紹介
神経内科学

平成九年に神経内科・健康増進科として講座が開設され、その後は内科の再編に伴い講座名も変更され、平成十二年には内科第五となり、平成十九年四月からは現在の神経内科学として気持ちも新たにスタートしています。院内の人員は山田達夫教授、坪井義夫准教授、宗清正紀講師(健康増進科)、馬場康彦講師(医局長)、小林智則助教、井上展聡助教(病棟医長)、合馬慎二助教(外来医長)、尾畑十善助教、津川潤助教、玉木慶子助手、崎山かおり助手、田中

美紀助手、福原康介助手、樋口正晃助手の計十四名で構成しています。神経内科学では神経変性疾患、脳血管障害、脱髄性疾患、感染性疾患、代謝性疾患、末梢神経・筋疾患など多岐にわたる神経疾患に対し、より専門性の高い医療を提供することを目的とし、日々の診療を行っております。認知症疾患に関しては「一物忘れ外来」による専門診療を行っており、神経心理検査と併せて最新の画像学的解析を用いた診断を行っています。特にアルツハイマー病に対しては薬物療法に加えて介護

福祉にも介入し包括的医療を実践しています。また、薬物治療に抵抗性を有するパーキンソン病や本態性振戦に対しては、脳神経外科と協力し脳深部刺激療法を行っており、良好な運動症状の改善効果が得られています。脳梗塞超急性期例に対しては救命救急センターと協力し二十四時間体制で経静脈的血栓溶解療法を行っています。その他、顔面痙攣、眼瞼痙攣、痙攣斜視などを不随意運動を呈する疾患に対しA型ボツリヌス毒素(ボトックス)による治療を行っています。研究面では、大分県宇佐市安心院地区において、二〇〇名を対象とした生活習慣への介入による認知症予防の検討を二〇〇三年から行っており、非薬物療法による認知症の

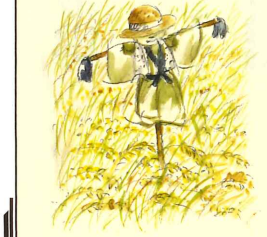
教室紹介

筑紫病院眼科

当科は平成三年一月に開設して、今年で十八年になります。現在の筑紫病院のスタッフは向野利寛教授、吉田茂生講師、野田美登利助手、鍋島崇寛助手の四名です。臨床面では、眼疾患の手術治療に重点を置いており、年間約三五〇例の手術を行っています。中でも糖尿病性網膜症に対する治療が最も多く、全体の三分の一を占めます。網膜剥離や血管新生緑内障を伴う重症の糖尿病網膜症でも90%以上の手術

成功率になっています。最近では糖尿病黄斑症に対して手術も行っており、当科での糖尿病黄斑症の手術治療成績は、約60%の方が視力改善されています。裂孔性網膜剥離の治療成績は一回での手術成功は約80%で、複数回手術を行う場合もありますが、ほぼ網膜を復位させられるようになっています。

近隣の開業医の先生方とも緊密に病診連携を行っています。定期的に福岡大学筑紫病院眼科勉強会を開催し、積極的に情報交換を行っています。本年度は佐賀大学の沖波聡教授、山口大学の西田輝夫教授に講演を頂く予定です。研究面では糖尿病黄斑症などの手術治療成績の統計学的な解析や、硝子体中のサイトカインの解析などを行い、積極的に学会発表を行っています。今後とも地域医療への益々の貢献と、近未来のよりよい眼科学の創出にむけて努力を続けて参ります。



福岡大学医学会 第58回例会および第31回総会(報告)

日 時／平成20年10月8日(水) 17:00~19:15
場 所／医学部臨床大講堂

1. 第58回福岡大学医学会例会 【進行】 集会幹事 岩本 隆宏

- 1) 開会の辞 集会幹事 岩本 隆宏
- 2) 会長挨拶 医学部長 黒木 政秀
- 3) 第10回福岡大学医学会賞受賞論文講演
 - 講演1 講演者…鉢嶺 顕 座長…黒木 政秀
「Sonodynamic therapy of cancer using a novel porphyrin derivative, DCPH-P-Na(I), which is devoid of photosensitivity」
 - 講演2 講演者…川上 豪仁 座長…岩崎 宏
「Micropapillary pattern and grade of stromal invasion in pT1 adenocarcinoma of the lung: usefulness as prognostic factors」
 - 講演3 講演者…喜多村泰輔 座長…石倉 宏恭
「Activation of sensory neurons contributes to reduce spinal cord injury in rats」
- 4) 第10回福岡大学医学会賞金賞論文投票
- 5) 新任教授講演 座長…黒木 政秀
 - 講演1 講演者…石倉 宏恭 (救命救急医学教授)
「これからの救急医療」
 - 講演2 講演者…久保 真一 (法医学教授)
「法医学の今後展開：日本における死因究明制度の現状と問題点」
 - 講演3 講演者…吉満 研吾 (放射線医学教授)
「臨床MR診断：最近の話題」

2. 第10回福岡大学医学会賞授賞式 【進行】 集会幹事 岩本 隆宏

- 1) 開票結果発表
- 2) 授賞式

3. 第31回福岡大学医学会総会 【進行】 庶務幹事 井上 隆司

- 1) 議 事
 - 議 題 ①報告事項
 - ②平成19年度会計報告および平成20年度予算案
 - ③その他
- 2) 閉会の辞 集会幹事 岩本 隆宏

○ 永山 在明 教授 (微生物・免疫学教授)
○ 加藤 寿彦 教授 (耳鼻咽喉科学)
○ 柏村 征一 教授 (法医学)
○ 小野 順子 教授 (臨床検査医学)
○ 藤垣 静枝 教授 (看護学)
○ 大場 三栄 准教授 (生理学)
○ 宇都宮英綱 准教授 (放射線医学)
○ 後藤 英一 准教授 (救命救急医学)
○ 丹生 恵子 准教授 (輸血部)
○ 衣笠 哲史 講師 (生化学)
○ 熊谷浩一郎 講師 (循環器内科)
○ 白井 和之 講師 (循環器内科)
○ 田丸 俊三 講師 (泌尿器科)
○ 大府 正治 講師 (臨床検査部)

(平成二十年三月三十一日付で退職された方)

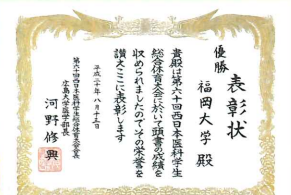
長い間
ありがとう
ございました



サッカー愛好会快挙 平成20年度第60回 西日本医科学生 体育大会優勝 (顧問 大慈弥裕之教授)

主将 田中 健太郎(四年生)

平成二〇年八月十三日午後三時。福岡大学医学部サッカー愛好会の歴史が変わった。西医体で見事優勝したのだ。激闘の試合を振り返ってみよう。初戦の大阪市立大学戦は、PK戦でここ数年ごとく苦杯をなめ続けていた福大が見事勝利し、ひとつ目の大きな壁を乗り越えた試合だった。三回戦ではライバルと位置づけられている九大を破り二年連続ベスト十六敗退という二つ目の壁を乗り越え



祝「第10回 福岡大学医学会賞」

- 金賞(1名)** 川上 豪仁
Micropapillary pattern and grade of stromal invasion in pT1 adenocarcinoma of the lung: usefulness as prognostic factors
- 銀賞(2名)** 喜多村泰輔
Activation of sensory neurons contributes to reduce spinal cord injury in rats
- 鉢嶺 顕
Sonodynamic therapy of cancer using a novel porphyrin derivative, DCPH-P-Na(I), which is devoid of photosensitivity



医学会賞受賞者を囲んで (左から 岩崎教授、鉢嶺先生、川上先生、喜多村先生、岩本教授)

学位取得

次の方は、平成二十年三月二十一日付で福岡大学より医学博士を授与されました。

課程修了による学位取得者

川上 豪仁 (病態構造系専攻)
中川 元道 (病態構造系専攻)
伊藤 威 (病態構造系専攻)
前川 信一 (病態構造系専攻)
平野 哲彦 (病態構造系専攻)
安野 毅 (病態機能系専攻)
篠田 雪子 (病態機能系専攻)
松井 剛 (病態機能系専攻)
有島 宏明 (病態機能系専攻)
今泉 聡 (病態機能系専攻)
木谷 嘉博 (病態機能系専攻)
光武 ちはる (病態機能系専攻)
古山 正大 (病態機能系専攻)
光武 良晃 (病態機能系専攻)
村岡 聡一 (病態機能系専攻)
柳 大三郎 (病態機能系専攻)
高田 景一郎 (社会医学系専攻)
田中 謙太郎 (社会医学系専攻)

論文提出による学位取得者

入江 真 消化器内科助教
趙 玉梅 学外者
佐光 英人 臨床検査部助教
村上 護士郎 循環器内科助手
森戸 夏美 総合診療部助教

医師国家試験に103人が合格

第一〇二回医師国家試験(二月十六、十八日実施)に一一八名が受験し、一〇三名(新卒八十二名・既卒二十一名)が合格した(合格率は八七・三%)。